

エビの腰が曲がったわけ

(秋田県)

むがしあつたぞん

むかし、あるところに、タカとエビがなかよく暮らしていました。

ある日のこと、タカがエビにいいました。

「おれはあしたから世界一周してくるよ。三十日たったら帰ってくる」

あくる朝早く、タカは大空にまいあがり、矢のように飛んでいきました。そして、ちょうど三十日目に反対の方角から飛んで帰ってきました。そして、エビに世界のめずらしい話を聞かせました。

エビは、自分も世界一周したくなりました。けれどもタカは、

「おまえはつばさもないし、足もよわいからむりだよ。世界一周なんてやめたほうがいい」といってとめました。けれどもエビはどうしても行くといって聞きません。そこで、タカは、

「じゃあ、行けばいいが、山の方は通らないで、海辺や川岸を通っていくんだよ。山を行くと、ところどころ火をふいている所があつて、焼け死んでしまうからね」と教えてやりました。

エビはさつそく出かけました。けれども、タカが教えてくれたとおりにしないで、山の方ばかり通っていきました。そして、世界の半分まで回りました。エビは、

「火をふいている所なんかなかったじゃないか。タカのやつ、うそを教えたんだな」と思つて、また山の方ばかり選んで進んでいきました。

とつぜん、大きな音がして、山が爆発しました。大きな石が飛んできてエビの腰に当たり、エビはぼったりたおれて死んでしまいました。

いっぽう、タカは、いつまでたつてもエビが帰ってこないで、心配になってさがしに行きました。ずうつと飛んでいくと、エビがたおれているのが見えました。タカはびっくりして下りていきました。すると、エビのお腹から、たくさんの子エビがうようよ生まれていました。タカは、かわいそうに思つて、子エビたちをみんな羽に乗せて連れて帰りました。

タカは、子エビたちに、

「おまえたちの母さんは、いうことを聞かないで山の方を通つたから死んでしまったのだよ」と話してきかせました。そこで、子エビたちは川や海で暮らすようになりました。そして、親のエビが腰を打つたので、子エビたちはみんな腰が曲がっているのだそうです。
おしまい

原話：『昔話研究10号』「仙北郡昔話」三三三社

再話：村上郁